ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	No.1（堰堤左）	調査位置						北　緯	36 ° 38 ’ 58.0000 ”
発注機関	栃木県烏山土木事務所　整備部			調査期間	2010-01-18 ～ 2010-01-21			東　経	140 ° 08 ’ 22.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	129.26 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 30.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	12.01 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	127.46	1.80	1.80		盛土(礫混じり粘土)(BS)	暗灰～褐		極軟	0.6mまでは採石主体 0.6以深は礫混じり粘土主体 含水量中位で粘性小さい ローム混じりである		
2	125.76	1.70	3.50		礫混じり粘土(CH-G)	暗褐		中	1.8～2.0m間は有機質土であり旧表土と考えられる 2.0m以深礫混じり粘土でなり，腐植物を混入する 含水量多く粘性大きい		01/19 3.60
4	120.56	5.20	8.70		粘土混じり砂礫(GS-C)	暗灰～灰褐	緩		凝灰角礫岩礫が主体 礫径φ10～50mmの角礫を主体とする粘土混じり砂礫層 礫間は砂・粘土にて充填されている 所々にφ300mm(コア長L=100mmの3倍程度として推定)の玉石を点在している 4.9～5.6m間は粘土分が非常に多く緩い 全体に風化した礫を混入している 深部ほど締まって堆積している		
9	119.46	1.10	9.80		強風化凝灰角礫岩(Tb)	淡黄灰			強風化により土砂,粘土化している岩盤組織を残し，固結の程度が高い		
10	117.25	2.21	12.01		凝灰角礫岩(Tb)	青灰～暗灰			新鮮である 割れ目は少なく，割れ目に沿った風化変質はない 長い柱状コア主体 最大コア長L=600mmを呈す 岩盤区分はCH級に分級される		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	00／8	1／27		1／35	1
1.50					
2.15	1	2／12	1／8	4／30	4
2.45					
3.15	3	3	4	10／30	10
3.45					
4.15	19	19	12／9	50／29	>50
4.44					
5.15	3	3	2	8／30	8
5.45					
6.15	10	6	6	22／30	22
6.45					
7.15	11	12	13	36／30	36
7.45					
8.15	50／5			50／5	>50
8.20					
9.15	15	15	20	50／30	50
9.45					
10.00	50／5			50／5	>50
10.05					
11.00	50／2			50／2	>50
11.02					
12.00	50／1			50／1	>50
12.01					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						01/18
						01/19
						01/20
						01/21